（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十四年二月八日（水曜日）　臺灣日日新報　第一万三千九百七十一號　A　（一）

臺灣昌新報（夕刊）
二月七日
夕刊定価一部二錢
編輯兼發行人　佐々木　齊
發行所　臺北市北門町四丁目廿番地二番
臺日日新報社
基隆支局（基隆市七五）
臺中支局（臺中市寶町（電話第八〇七）
臺南支局（臺南市開町（電話第八〇）
花蓮港支局（花蓮港街入船町）
大阪支局（大阪市西區初道堀通貳丁目）
東京支局（東京市芝區櫻田本郷町參番地）

人戰軍の潰滅後も 伊義勇軍は駐屯

チ英首相對佛協力言明で 伊の西班牙態度硬化

【ローマ六日發同盟】チェンバーレン首相が六日の下院で將來フランスが戰火に捲き込まれた場合英國が全力を擧げてフランスに協力する旨を明言したことはイタリーに多大の反響を惹起してゐるが、イタリー側はこの言明により益つて對スペイン態度を硬化した傾向があり フアシスト方面ではこれに對し左の如く批評を下してゐる

チェンバーレン首相の對佛協力聲明は全體主義國に對抗する英佛兩國の正式同盟の結成に近いものであり、イタリーとしてはスペイン人民戰線軍が潰滅した後もイタリー義勇軍をスペインに駐屯せしめるのは將來ムツソリニ首相がフランスに對し要求する提携的、外交的の地歩を強化せんとする意圖に出たものと見られる

國防會議開催

【ローマ六日發同盟】イタリー政府は六日夜ムツソリニ首相司會の下に第十九回國防會議を開催、當面の國防諸問題を討議した、政府公表に據れば同會議では特に緊急有事の際に制定する全國戰時體制化の問題が審議された

英佛兩國に縋る

兵士の迫害行爲中止を條件に 和平休戰の斡旋を依頼

【ロンドン六日發同盟】スペイン內亂がフランコ軍の勝利によつて終幕に近づくとともに英、伊兩國の外交活動は俄かに活潑となつてゐるが駐英コルバン佛大使は六日午前英外務省にハリファックス外相を訪問、スペイン內亂に對する休戰斡旋問題につき鳩首協議を遂げた、更にスペイン駐劄アンリ佛大使も五日ステプンソン英國大使と同道、人民戰線政府の權外相デルバヨ氏と會見、休戰問題につき意見を交換したと傳へられるが右會見の際デルバヨ外相はスペイン領土の保全並に人民戰線兵士に對する迫害行爲の中止を條件に和平休戰に應ずる用意がある旨を言明、英佛兩國政府の好意的斡旋乘出しを要望した模樣である

休戰提唱を拒否

人戰派は潰滅の一途

【パリ六日發同盟】スペイン內亂がフランコ政府との間に休戰和平の斡旋に乘出し方を要請したと傳へられるが六日パリ外交界に入つた情報によればフランコ政府は人民戰線側の休戰條件中に人民投票による新政權の決定を要求してゐる點に憤激これを全的に拒否したと云はれる、斯くフランコ政府側が休戰提唱を拒否した結果人民戰線軍は愈よ潰滅の一途を辿ることとなつた譯である

ミノルカ島危殆

フランス海軍根據地の觀あり フランコ軍攻撃開始

【ローマ六日發同盟】フランコ軍空軍はバレアル諸島のミノルカ島に對して攻撃を開始し空から多數の陸戰偵察ビラを撒布した、フランコ軍は遠からずミノルカ島に對し上陸を敢行することとなら、ミノルカ島は西部地中海バレアル諸島の一つでフランス領土の東北上の根據地として使用され軍事上極めて重要なところであるから同島がフランコ軍に依つて占領されればイタリーの地中海制覇の上に重要な意義を持つものとして世間で

英首相示威

對佛協力の決意を 六日の下院で言明

【ロンドン六日發同盟】チェンバレン英首相は六日下院で一般質問に答へて英佛兩國關係に言及し

ボンネ佛外相に次ぎ二十六日の英議會で將來英國が戰爭に捲込まれた場合英國の全兵力はフランスの救ひ得られ同時に

東亞に新國際通信網

日、滿、支の三國を結ぶ 改正法律案を今議會に提出

【東京七日發同盟】鳥居逓信省では事變以來日、滿、支三國を通ずる通信網の緊急整備に努力し來つたが、更に國際電氣通信會社法中改正法律案を今議會に提出することに決定した右は國際電氣通信會社の設立に關し

國府經濟援助を 英が考慮中

バ外務次官が答辯

【ロンドン六日發同盟】六日英國下院の質問時間に際しバスター外務次官は英國政府は經濟援助に關する國民政府の提案の或るものについて目下考慮中であるが現在のところ確定的に申し上げ兼ねる事情にあると述べ出兵の有無に關しては明言を避けた

總動員法第十一條 いよ〳〵發動する

石渡藏相重要點闡明

【東京七日發同盟】國家總動員法第十一條は關係當局の緊密なる連絡を待つて竝く發動されるに至つてゐるが六日の衆議院豫算第二分科會において關口鯉吉氏（民政）永山忠則氏（第一）兩氏の質問に答へて石渡藏相は同條動の場合における左の諸点につき政府の方針を闡明した

一、社內保留　第十一條に基き社內に保留を命じたる場合これを優遇するは勿論なるも社內保留には命令に依らざる自發的保留には命令に依らざる自發的保留に依るものもある故第十一條關係の法令をもつて免税を規定することは困難で社內保留は一括して整理公債に依り免税を行ふ

二、經理命令　第十一條に依る配當關係命令は油脂のため人件費その他の支出費目に不當の金額を計上するものに對しては嚴格的なる經理命令を發してこれを取締る

三、融資命令　一般銀行に對し積極的に巨額の融通を命ずることはないが興銀に對しては融資命令を發することを得る、命令に依る融資の擔保保證については政府は相當重なる注意を拂ひ不良資産の增加へられる場合にはこれが如何なる國から生じたるものにせよ國と協力するの用意がある

四、增産命令　國家總動員法第八條に依る增産命令については經濟の必要ありと認めるときは發動する

對蔣借款の 使途が判明

【ワシントン六日發同盟】議會以來種々の憶測を生みながら何等その內容の明かにされなかつた本當に對支借款の使途が六日確定した、即ち借款一千五百万弗の使途が六日確定した、即ち借款一千五百万弗の使途が六日確定した、即ち借款一千五百万弗

英艦の武力行使に
強硬な抗議提出
加藤青島總領事より

【青島六日發同盟】去る一月三十日青島港内で英汽船永貞號の秘關規則違反行爲を取調べようとしたところ英軍艦バーミンガム號士官が武力を以てこれを拒否し遂に稅關吏の職務執行を不能に陷らしめた事件あり、右に關して加藤總領事は六日午後三時英總領事マーチン氏と會見、強硬な抗議を提出し不法行爲に關する釋明を要求するとともに將來この種不法行爲の頻發せざるやう海軍當局に嚴重申入れ方を要求した

南支派遣軍へ娯樂品
映畫を始め大量支給さる

【東京七日發同盟】南支の占據地域に復歸して來る支那人を慰撫する一助として又皇軍將兵慰安の爲にと南支派遣軍では娯樂品を大量に仕入れることになりこの程南支軍總司令部から陸軍一部世話長が進々

上京、六日各方面と折衝した結果各映畫會社提供のフイルムを初め陸軍恤兵部からラヂオ百五十台、蓄音器六百台、レコード一万二千枚、碁將棋千八百組、軟式野球具一百組、相撲の賜品五百組その他フットボール、バスケットボールの貴具など行き渡いた支給をうけたので近く福岡の途に就くこととなつた

小田勇滑空士
滯空、高度の新記錄
九時間三十三分と二千六百米

【神戸七日發本社特電】六日午後仁川飛行場で行はれた日本飛行學校生徒小田勇滑空士の滯空、高度の新記錄樹立飛行は午後一時から四時まで

北署管內

五分頃松山醫學專門部前電柱附近で、同校生徒小田勇滑空士（一九）が滑空機に乘つて飛行中、突然機體が左に傾いたまま墜落、小田滑空士は頭部に重傷を負ひ、同滑空機は大破した

中、北支方面の戰果
一月中に十九回も敵を潰滅

【漢口六日發同盟】山東、河北、河南、安徽の一部における一月中の戰鬪左の如し

戰鬪回數一九回　敵遺棄死體七、六四八
九一〇　敵遺棄死體七、六四八
捕虜二三八　鹵獲品小銃一、六八五　同擲彈六、三三七　迫擊砲一五八　手榴彈八〇一　戰死傷六一　その他多數

香港丸が入港
皇軍駐屯地を觀る

【基隆特電】廈門航路香港丸は七日午前十一時基隆着外客、船客は高雄州會議員松尾繁治、渡辺高藏兩氏等一行皇軍駐屯地視察の爲め九十二名であつた

松尾氏談
滿洲國皇帝陛下に祝電
ヒトラー總統から

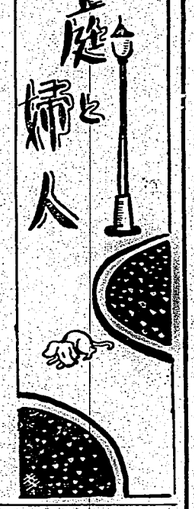
【ベルリン六日發同盟】ヒトラー總統は六日滿洲國皇帝陛下に對し第三十二回万歳の辭を述べて御祭び申上る旨の祝電を發した

〝倫敦條約〟の論文に
心血を注いだ加藤大將
脫稿と共に今回の發病

【熊本七日發本社特電】重態を傳へてゐる加藤海軍大將が倒れる直前に生命の筆を揮つて書き綴りたものは、それは彼のロンドン條約に對する無條件、軍縮反對を主張して來た大將は自分の主張が具現された現在の國際情勢を見てロンドン條約を中心とした英米人を憎き十字之を後世に殘さうと思ひ立ち昨春以來執心に筆を染めて來たもので、この仕事についてはロンドン會議が開かれた時軍令部次長であつた加藤大將も大いに之を喜んで居た、軍縮條約の成立に不滿を抱いて軍令部長の要職を退いた大將としてはこの原稿整理こそ眞に粉魂を打込んで四谷信濃二光町の自邸で書き綴つて居られたものである、大將は自分の主張が具現された現在の國際情勢の變化を見て、

（第三種郵便物認可）　昭和十四年二月八日（水曜日）　臺灣日日新報　第一万三千九百七十一號　A　（三）

家庭と婦人



恐ろしい 小兒の潜伏結核

健康さうな子でも油斷は禁物

家庭に於ける豫防法十ヶ條

（下）

醫學博士　佐藤正

(五) 兒の病氣が移つて、咳嗽の中に結核菌が出なくなれば、母は赤坊と同室に居てもよろしいが赤坊に接したり、抱づりしたり、或ほ添ひ寢をするなどは危險です。タオル、ハンカチ食器などの共用も避けるやうにした方がよろしい。赤坊のみならず幼い子供に近づく人は父母であると兄姉であると醫師であるとを問はず凡て健康者でなくてはなりません。食物、器具、玩具などと子供の觸るるものには、結核の病菌のないものでなければなりません

(六) 小兒の榮養を善くすること、結核の豫防には榮養を好くすることが大切であることは、小兒にも大人にも同樣ですが小兒は成長して身體を旅へてゆく爲には、それに相應するだけ十分の榮養を攝らねばなりません。いはゆる、隱病性の兒童で身體の榮養狀態が良くないやうな場合には家族も社會も特に榮養の方法を考ふべきです

(七) 小兒の生活の條件を良くすること、兒童には特に新鮮な空氣と日光とが十分に與へられねばなりません、蒸花の如ほ之等に暖かい太陽の光が必要なのと同じ理由です、兒童は太陽の使者です、成可く戸外で外氣に觸れさせ日光浴をさせます、人込の場所樂をさ所に連れて行かぬやうにして下さい

(八) 兒童の生活をばその健康を基礎として理想的に營まらぬやうにします、起臥、食事、睡眠、休養、運動、勉强など凡て規正して、適當な度合を守られねばなりません。兒童の衛生を怠り引込み主義、臆病にする必要はないが、凡て度を考へ、過勞に流れ睡眠不足になり、心身の疲勞が强過ぎるの注意すべきです、勉强も運動も過度になつてはなりません

(九) 病氣に罹らぬやうにすること、感冒や他の傳染病に罹らぬやうにすることです「患ほは万病の基」と昔からいはれてゐる通りですから、殊に感染を豫防することが大切です、しかし心の餘りこの點に神經過敏になつて取越苦勞をもつて勉强にわれる位親には一つの光明であり、絶望より希望へと子供を激害し導くことが出來ると思ひます。

(十) 時々體重を取り健康相談をするのがよい、世間では兒童を學校に入學させるときには學中になるが、同時に我が兒の健康について十分に考へる人は案外に少いやうですが、健康は凡ての基で、これに注意することが先決問題であり最重要なことであることをよく認識し、努めるべき結核から子供を守つていただきたいと思ひます

鷄子兒炒飯

冬の變つた料理

卵の炒り御飯に、白菜と豚肉とのお汁をかけて熱く氣の利いた變り御飯です（五人前）

御飯の分量——冷飯お茶碗に七杯、卵五個、醤油一杯、豚油大匙五杯

お汁の分量——白菜（大）四分の一個、豚肉二十五匁、醤油匙一杯半

拵へ方 先づお汁を作ります白菜をなるべく細く小口切りにして洗つて水氣を切つておきます、豚肉は七八分に薄く細く切りにして、しやもじでよくかきまぜながら豚油を入れて煎りつけ、醤油を入れて煎りつけ、醤油を入れて煎りつけ、醤

開花三世相

(95)

村松梢風作

中一彌畫

移る時勢(四)

「何んだ！」

日那様、大変でございますよ、彰義隊の連中が御門の警衛を根に持って、御門方の帰りを待ち受けて、御ノ町で果し合ひをする相談をして居るんですよ」

「さうか、どうしてそれが判つた」

「あの中の頭の大藤といふ人の相方の松栄さんが其の相談を立ち聞きして妾に知らして呉れたんさまです。連中は夜明け前に御ノ町へ引き上げて御門方のお帰りを待つてゐるとのこと、若しお怪我をなされては大変、御内所へ話して非常口から御お帰りを渡つてお帰りなされませ」

「聴くから黙ふかと鬼面人八郎は、少しも騒がない。

「それはよく知らせて呉れた。併し彰義隊の方から襲る筈は無い、我決して喧嘩はせん、假令如き十人や廿人来れるところはない」

と、頑として友人の金江、篠山の両名にも此の事を告げると、

「面白い、御ノ町に彰義隊で死人の山を築いてやれ」

と、反つて勇み立つ始末。

夜の引明け頃であつた。尾張藩の、番頭、金江、篠山の二人は十分に支度をして袴の股立ちを出た。御ノ町の橋は敢て警戒して青葉が茂んでゐた。うつすらとした霧が流れて、人の顔がぼんやり見え出してゐる。

諺が云つたともなく、此の時が最も敵に傷つけ易い。

「彰義隊と官軍と御ノ町で斬り合ひをするさうだ」

「一體、喧嘩の原因は何だらう」

「それがサ、原因は矢つ張り女の事からなんだ。さる様の花魁だが彰義隊の侍と深間になつて、未は夫婦と約束したと思ひなせえ」

「成る程……」

「すると其の花魁の処へ官軍の侍も通つて来て、こつちは金が有るから身請すると云ひ出したが、彰義隊といふ間夫があるから花魁が身請を承知しないのだ」

「それも聴いていな、江戸ノ兒はさうなくつちやならねえ、彰義隊へ、江戸は公方様のお膝下だ、領切れなんでになまで自由にされて堪まるものか、それからどうした」

キネマ旬報のベストテン決定

キネマ旬報社では同社主催の「昭和十三年度優秀映画(邦画)」は映画界第一線の批評家二十四氏の厳正なる投票の結果左の如く内ベストテンを決定発表した

第一位「雁啼会の手紙」
第二位「オーケストラの少女」
第三位「ジニーの家」
第四位「モダン・タイムス」
第五位「スタア誕生」
第六位「赤ちやん」
第七位「愛なき陣土」
第八位「新婚道中記」
第九位「新天地」
第十位「ジャン・ルジャン」

(那第二位「五人の兄弟」
第二位「路傍の石」
第三位「ほゝと子」
第四位「上海」
第五位「緑方敏幸」)

大久保彦左衛門(上)

藤堂公と寄附金

大久保彦左衛門は二千五百石を領し住居は駿河台、多くの浪人者を養ひ置くため生活は裕たざる状態その費用は諸大名から寄附をこふ事にした、斯くと聞いて藤堂和泉守侯は家老に、彦左衛門が来たらば百下腸手部不如意につき、寄附の儀は一切お断りすると申せ、然し百下腸中だと申せど言ひ渡して置いた、果して彦左衛門が来たが此の事をきいて左様でござるかと引取るやうな彦左衛門ではない、早速和泉守侯に會見して「和泉守殿の御屋敷の内神田の上野は大阪に大軍起つた時これを押へるには最も大切なる要害の地である、大和川を御つて参るこゝ夜の内に大阪に行ける、其屋敷の地の城主となられた和泉守殿は、徳川に取つて頼母しき者には候へどもいつ伊賀上野の城をあたへられるものであらう、イヤ大切な御屋敷である故御屋敷なさい、就ては久々にて御例ひいたした御寄、空しく手帰るは如何にも残念、御屋敷を譲り申すために是にて御酒を飲まされから戦場のお話しをいたしたい、如何でござらうか、是非御酒を一献頂戴いたしたい」

斯う云はれては断れぬ、彦左の中から首を出した藤堂が

「酒を取らせろ」

と云つた、ここで彦左衛門は藤堂の屋敷内にて盛々と酒をあがりながら戦場の物語りをはじめた

「其方と大藤年を取つたな、左様か、もうさうなるかな、俺も本年は六十を越えたと」

「左様でござるか、感慨大分を取つたな、近頃は手入れもいたさぬそうなるものなりと古人も申して居るが先づ武士に取つて大切なものは乗馬である、馬が悪いと功名をあらはすこともならぬ、しからば当の事ながら藤堂は譲つて良馬を求めたのだ、今此の小屋を見るにつけても思ひ出すは大阪の一戦」

と三つつホロリと涙をこぼした彦左衛門、小屋の窓を開けて

「其方大藤年を取つたな、左様か、もうさうなるかな、俺も本年は六十を越えたと」

為に木村の槍にもかゝらず、まづ以て無難に御主人は本陣まで引揚げる事も出来た、して見れば其方の功はあの一戦については第一であらう、も人であれば二万石を領して藩老にあるべき筈、然るに御主人が鞍の前輪に引掛けた薄着振りは美事であつた、何、引掛けたのではないあれは投げたのだと、アハハ、イヤさうかも知れぬ」

と大人保は笑つた彦藤堂侯は家来の手前面目なく赤面したし、此の老爺は容易ならぬ老人なりと心中で感じてゐる。

カナ文字ニュース

△ワガ　空軍ハ　ツルイ　天キガ　ツヅイテ　オモフヤウニ　ハタラケズ、タイヘン　ザンネンガツテ　キマシタガ、二三日マヘヨリ　オ天キガ　ヨクナツタノデ、中支那ノ萬縣ヲ　空シフ　シマシタ。ワガ軍ノ　ヒカウキガ　キフニ　アラハレタノデ、敵ハ、タイヘン　アワテテ　ニゲダシマシタ。

△オソロシイ　天ネントウガ、支那カラ　臺北ニ　入ツテ　キマシタ。テンネントウハ、ツツル　ビヤウキデスガ、シニトウヲ　シテヲケバ、カカル　シンパイハ　アリマセンマダ　シユトウヲ　シテキナイ方ハ、オイシヤサマニ　スグシテ　イタダキマセウ。

△日本ノ　オトモダチト　ナカヨク　ショウトイフノデ、臺北ノ　ウオーナー　アメリカ領事ハ、七日ノヨル　オトモダチヲ　マネイテ、オンガククワイヲ　ヒラカレルサウデス。ピアノヤ　ウタノ　ジヤウズナ　レーラ夫人ハ、日本ノ　國ガ　タイヘン　スキデ日本ゴガ　デキルヘニ、オコトノ　ケイコマデシテ　イラッシヤル　サウデス。

△オソロシイ　天ネントウガ　支那カラ　臺北ニ　入ツテ　キマシタ。テンネントウハ、ツツル　ビヤウキデスガ、シニトウヲ　シテヲケバ、カカル　シンパイハ　アリマセンマダ　シユトウヲ　シテキナイ方ハ、オイシヤサマニ　スグシテ　イタダキマセウ。

(海外小話)

赤ん坊の名をつける役所

ニューヨークのアルファリン地方には風変りな役所がある、そこは赤ん坊に名をつける組織を助けるところである、アメリカには遊覧地といふところなんだ」

「へえー、そいつあ大変な所になつたが、一體其の騒動の原因の花魁といふのは何処の楼の何といふ花魁なんだネ」

「それは、つい聞かなかつたが、多分そんなことやないかといふ話さ」

「ナーンダ、詰まらない」

「頼朝りなどが聞き付けてワイワイ御ノ町へ押し掛ける、振袖源の二人が御ノ町の角に出て来ること、反対の角から待つてゐた彰義隊が十人許りドカ〳〵と出て来た。

「其方は恩義が処だ、然し年は取りたくないの、只今御屋敷御主人の申すには、最早小屋も老馬となつた故自由の許へ遣はすべきであるが、最後の功を思ひ一生飼殺にいたしやうと、そもそも緑を以て葵の跡といふはばかり、実に其方はあれな処だ、元和元年五月五日、河内街道八尾若江の一戦に其方の殿様いたした武者振りの勇ましさ、あの御主人は總勢二十四万の兵を率めて若江に進む、すると、井伊直孝が三千一百人を率めて加勢として着陣した、しからば兵手合せて八千二百人、しからに大阪方は木村重成に長曾我部盛親が四千の兵を率めて押し寄せ来つてここに戦ひを開いた、処が木村長曾我部の兵は必死の奮闘にて突き入つた為に當家の固勢は浮き足立つた、此の時木村重成は大身の槍を取つて先頭に進み士卒に下知をうつた、やがて御當家の旗本に突き入つたが、イヤその勇ましさこと敏なからも天晴れなものであつた、同、その時機は何処に居たと、あの時は直目付として若江の處に馬を止めて見てゐた、木村は御當家の旗本を突き崩して御主人の居られた正面まで進み鉄光石火御主人望んで突つかかつた、その折御主人は騎の頭を立て直して一鞭加へようと見たが後方を指して逃げた、木村はこれを何処までも追ひかける、御主人は何処までも引き揚げる、その時其方（小屋）がのろのろして居たら木村の槍にかかつて芝に御主人は戦死いたしたであらう、所が駿風のごとく駆け出した

捧げた花束が縁

甘いメロディで知られたコロンビア蓄音器専属楽団がこのほど結婚のゴールインをした、歌人はいふ迄もなく渡邊出身、芳紀二十二歳の春日野八千代さんと一昨年の春中野劇場が臺湾慰問演奏旅行した時、北公會堂のステージで主催者側の花束を中野民に贈つた令嬢、それがとかく噂のあつた演奏さんと婦人倶楽部二月號）

メガホン塔

▲壹万円の懸賞を當てホクホクしてゐる人から（二等券）▲夜毎夜毎の札遊びも御用なしの（仙洞田）▲噂歌をきります、初めは「秋のヨル」さんでから只今のは「秋のヨル」さんでございますとはさすがA氏のアナさん（臺南生）▲毎晩セパートの前掛は困る（老松二丁目）▲熱狂美談、遺骸献金（臺南一記者）▲便に關し御話致し度（臺北二記者）▲○○だ、××だと云つてロハ場もつぶれます（臺南市民）▲二千百餘名の風邪ぶり（臺南保健課）▲生活苦自殺者（臺北一記者）▲市営バスの車掌に空き人募集せりとか（臺北一記者）▲市営バスの車掌に空き人募集せりとか（臺北一記者）

商況(七日)

東京期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
四月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
五月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
六月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
七月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
八月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
九月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
十月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
十一月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇
十二月	一九〇	一九〇	一八九	一九〇	一九〇	一〇

▲期近建米　寄一九〇　高一九〇　安一八九　引一九〇　前引一九〇　出来一〇

臺灣正米市場　前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

臺北市場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

臺南市場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

神戸期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京銘柄清算前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京銀行賛株

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

神戸期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪期米前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京短期前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京國債實物前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京銘柄清算前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪短期前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

東京長期総取組

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪短期前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪長期前場

限	寄	高	安	引	前引	出来
三月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
四月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
五月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
六月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
七月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
八月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
九月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十一月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇
十二月	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	三六、〇	一〇

▲期近建米　寄三六、〇　高三六、〇　安三六、〇　引三六、〇　前引三六、〇　出来一〇

大阪砂糖清算前場

限	寄	高	安	引	前引	出来

臺灣日日新報　昭和十四年二月八日（水曜日）　第一万三千九百七十一號　A（一）
（第二種）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）

臺灣新報

日刊夕共十二頁
人行發兼編輯　佐々木　寧
臺北市榮町四丁目廿番地北側
電話　代表五八〇〇番
振替口座臺北二番
定價　一部六錢　一箇月金四十五錢（前金）
廣告　料金別途協議
特別一行十五字　壹圓五拾錢
記事一行十五字　壹圓
同　二行　同　壹圓五拾錢
社說

就學希望者は皆收容せよ

教育費の國庫分擔が必要

この議會において最も必要であり又緊急であるのは、本島人子弟に一般に國民教育を施こすといふ事である。有ゆるものが教育化されねばならぬ今日である。この時代の要請に副ふために、本島人の就學希望者は原則として入學できるだけの設備はドウしても整へてやらねばならぬ。本島の第二國民に、初等程度の國民教育さへ施さずして、皇國民意識の鮮明ならんことを望むのは卿か無理である。日本國民としての最低限度の教育を施つて置いて、然る上で個國國民としての信念や見識に欠くる所が有るなら、其の場合に於てこそ、統治上他の問題を萬圓に考へねばならぬ順序であるが、差當つての先決問題としては、學齢に達した兒童にして就學を希望する者ならば一率に入學させ得るだけの教育施設も、本島人の就學希望者は原則として入學できるだけの教育施設を整備することは、臺灣統治上の財政に余裕があるから、どうしても右に述べる初等教育中の教育費の他は國庫上り補助するの制を採らねばならない。其の財源としては當力性に富む統稅につき増稅しこれに充てる事にすれば、決して不可能で無いのみか全島的に見て却て衡平の公平も期せらるのである。又國庫が自ら初等教育費を分擔し、延いて教育方針を指導する事に依て初めて臺灣に於ても眞の國民を作る本格的工作に入つたと言ひ得るのである。總督府當局の此の國民教育に乘り出してこそ初めて本島統治も眞に根底の點に達すべく、それに依て將來、納稅、兵役、教育の國民三大義務を完全に實現せしむるの大道に就かしめ得るのである。當府當局の重大な考慮を煩はす次第である。

日本語を普及

追加豫算に計上

【東京七日發本社特電】日本語を世界に進出させよと去月二十六日の衆議院豫算總會で論じた鶴見祐輔氏に答へた荒木文相の「その用意あり」の言に從つて文部省では日滿支の新文化創造は日本語を東亞に普及するのが第一であると近衛圖書局長を中心に國語の海外普及並に國語の改良を協議した結果、東亞國際間に通用せしむべき言語は必ず日本語ならざるべからずとの根本方針を決定、追加豫算に計上して全アジアに日本語普及を実現する事となつた。この為め文部省では近く國語に關係ある各方面の学者、東亞事情に精通せる學者を總動員して現在の國語教育者を大擧に動員して「國語教育振興會」（仮稱）を組織し、アクセントを決め、用字を統一し、假名遣ひを簡易化し、國語を全面的に調査研究して、基本語を設定する事になつたが、外國人に日本語を教へるのが第一であるから、國語學會、國語教育學會、新興教育協會等の學者を網羅して「新興教育振興會」（仮稱）を組織し、國語辭典を編纂し、國語と日本語の東亞化によつて東亞新秩序建設の實現に邁進する事となつた

全アジアに

日本語を普及

追加豫算に計上

【東京七日發本社特電】日本語を世界に進出させよと去月二十六日の衆議院豫算總會で論じた鶴見祐輔氏に答へた荒木文相の「その用意あり」の言に從つて文部省では日滿支の新文化創造は日本語を東亞に普及するのが第一であると近衛圖書局長を中心に國語の海外普及並に國語の改良を協議した結果、東亞國際間に通用せしむべき言語は必ず日本語ならざるべからずとの根本方針を決定、追加豫算に計上して全アジアに日本語普及を実現する事となつた。この為め文部省では近く國語に關係ある各方面の学者、東亞事情に精通せる學者を總動員して現在の國語教育者を大擧に動員して「國語教育振興會」（仮稱）を組織し、アクセントを決め、用字を統一し、假名遣ひを簡易化し、國語を全面的に調査研究して、基本語を設定する事になつたが、外國人に日本語を教へるのが第一であるから、國語學會、國語教育學會、新興教育協會等の學者を網羅して「新興教育振興會」（仮稱）を組織し、國語辭典を編纂し、國語と日本語の東亞化によつて東亞新秩序建設の實現に邁進する事となつた

對ソ權益決議案

十四日本會議に上程

【東京七日發同盟】日ソ漁業紛糾問題の重大化に鑑み民政黨の山本悌二郎、手代木隆吉、政友會の末武、深澤豐太郎等有志は、これが對策につき協議を重ねたが、この際各派共同提案の形式をもつて對ソ權益擁護決議案を提出することとなり七日夜に纏つた。決議案は十四日の衆議院本會議冒頭右決議案を緊急上程するに決定した、決議案左の如し

帝國の權益に對するソ聯政府の壓迫は最近頓に甚しきを加へ將にその根柢を脅かんとす政府は速かに對策を講じ以てこれら權益の確保のため萬遺憾なきを期すべし

海軍の國防計畫

追加豫算は相當巨額

本月下旬議會に提出

【東京七日發同盟】海軍當局は帝國國防の現狀に鑑み、速かに海軍軍備の充實を圖るため、昭和十四年度以降五箇年間に亘る海軍國防計畫を樹立し、これが實現に邁進することとなつたが、この計畫は陸軍の國防計畫と相俟つて帝國國防の完璧を期するものであり、その内容は海軍航空兵力の拡充、艦艇の補充、要港部の整備、軍需品の充實等を主眼とするものである。而して右計畫實施に要する經費は約七億圓に上るものと見られるが、これが財源については目下大藏當局と折衝中であるが、臨時軍事費として提出されるものである、而して右追加豫算は第二次補充計畫の一部を追加豫算として提出する筈である、尚ほ右追加豫算は第二次補充計畫の増額に關聯するものと思はれる

我が帝國の有難さを

全本島人は痛感した

分科會に於て　森岡總務長官が說明

【東京七日發同盟】六日の衆議院豫算第一分科會において民政黨の中島彌團次氏から事變に際し各國本島人が如何に正しい認識を把握これに協力したかの質問に對し森岡總務長官はその概略次の如く說明があつた

本島人の八割といふ者は國語（日本語）を解し得るに至つたことは、領臺以來今日迄の本島人の動向は非常に注目されたが、領臺四十有餘の今日何等の心配なき狀態に進んで來た、事變勃發の當初においては、或は本島人一般の人心に動搖を來すのではないかと憂慮する向もあつたが、現在では十分な方面とも確信してをり統治上何等影響はない

【東京七日發同盟】七日の衆議院豫算第一分科會において、川村保太郎氏（紳士）より、事變の米の輸出管理實施に伴ひ農產物の値下りを招來する可能性から島内に反響が發生し農民經濟上惡影響はないか

八田拓相　最初官理案が重要案件の審査委員會の答申を尊重するまでは内容不明のため多少心配するも内地からの現在では十分な方面とも確信してをり統治上何等影響はない

川村氏（東拓、農拓、商拓三社間の業務分野の統制は適當か）

拓相　一律に規定することは困難であるが個々の場合に分擔を協議するやう

臺灣關係の

主なる質疑應答

【東京七日發同盟】七日の衆議院豫算第一分科會において交はされたる臺灣關係の主なる質疑應答左の如し

統治上何等の

惡影響は無い

米穀問題で　八田拓相答辯

畳影響はない（東拓、農拓、商拓三社間の業務分野の統制は適當か）

拓相　一律に規定することは困難であるが個々の場合に分擔を協議するやう

國民組織再編成

滿洲帝國協會の方策

【東京七日發同盟】滿洲帝國協和會はこの程本年度協和會工作方針を決定したが、右方針によれば去る七年の實績に鑑み國民組織の再編成に着出し協和會本然の使命達成方策を強化することとなつた而して協和會を中心とする國民組織の再編成工作は當面機構と協和會機能とを強化に融合せしむることが眼目で、これが具體策として は國民と政府機構の接點が從來街村であつたものを市又は縣に引

事變發生以來の

國防獻金額

谷口主計局長が說明

【東京七日發同盟】事變發生以來の國防獻金額に關し七日の衆議院赤子公債法案委員會で谷口主計局長は左の如く說明した

一、國家の一員として計上された從

密雲の間隙を利し

勇敢なる低空爆擊

海の荒鷲が當陽を急襲

【上海七日發同盟】艦隊報道部發表

一、中支方面に於て艦に万發を撃ち徹底的に撃滅せんとする海軍航空隊は六日朝に於ても連日（湖北省）を急襲、都合の關係を利し勇敢なる低空爆撃を敢行、市街中央にありし兵營を選んで集中、これに大打撃を與へたり、尚ほ爆撃後敵機及び地上砲火の射程圏外に避退せる第一航空隊攻撃部隊は機關銃及び重砲兵隊内の線路數ケ所を切斷したる外二箇列車を爆撃しその一部を炎上せしめたり

一、昨五日南支方面に於ける海軍航空隊は午前より次次と出撃し午後に至るも敵機の出現なく無事帰還せり

二、この間に於ける我が方の損害は皆無なり

産業の再編成

急速に方策樹立

小金鑛山局長の答辯

【東京七日發同盟】七日の衆議院豫算第五分科會（第一所管）において鐘紡出身の小金鑛山局長は六月中に方策を樹立し産業再編成に着手する旨を答辯したが、その要旨左の如し

一、本來物品を以て納付すべきものを金納とする場合は、物品の時價と金納額との間に差額を生ずるが、この差額は從來の例によれば、一年間（昭和十三年度は十月まで）歳入歳出外現金として保管し、翌年度の歳入に繰入れることとなつてゐ

糖業・拓殖

水田蔗作増加も 臺糖の歩留に影響

製糖開始の遅いのが強味

台湾製糖の今期蔗園は第二回調査によると作付面積二万七百七甲（内一作甲九、七五二甲、二作甲六、二六四甲、㈱一四、六九〇甲）甘蔗収穫十二万九千八百九十斤（内自作蔗園の予定一五八、〇〇〇斤、二期作蔗の予定二二、二六〇斤）原料総収穫見込二十九億八千八百五十二万斤、此内自作農場作付七千二百甲、五二三甲、二作甲、一、二五二甲、㈱四、四四六甲）より十一億二千九百十八万斤の原料を増げる見込となつてゐる、総原料に対する自作の歩合は作付面積に於て二割四分、収穫原料に於て一割八分五厘となつてゐる

同社は作付面積一万五千甲内外の時代までは作付面積の三割、原料の約二分の一が自作であつたが、作付面積の増大に連れ自作の歩合が右の如く低下したことは注目に値する、今期の製糖歩留は一月中旬迄は案外低かつたが下旬以後漸く好転し一月十五日（歩留）一月十五日　一月十五日

未満も未満も　第一　三二㌫　第二　三二㌫

	％	％
後壁林	三二五	三二四
同　第二	三二五	三二四
同　ミル	三二八	三二四
同　第二ミル	三二八	三二四
旗尾	三二六	三二四
恒春	三二五	三二四
臺北	三二四	三二四

（備考）右工場の内後壁林、車路墘第二蔗店、旗尾、臺北の五工場は自営を製造し、旗尾では別に角砂糖を製造す

右の内一割二分以上の工場は機予第二蔗店埔里社蔗作として蔗糖第二工場も将に一割二分前に乗せんとしてゐる、埔里社の歩留が最高位を示してゐるのは埔里山手及び山麓にあつて畑作が多いのと気温低く風も少く蒸発早きに因るらしく、之に引替へ

阿緱旗尾　の歩留が割に低いのは田作原料が割合に多くそれを除作、期末作付の蔗の一月十日前後迄に全部刈取つてしまはなければならぬ事情に係累を配されてゐるやうだ

同社は従来製糖能力制限の為め原料蔗を刈取つて今期の如き大増収の年に於ても他社ほどに製糖期間を延長する必要なく十一製糖所（十糖十二）中十一月中旬始りたのは埔子頭（第一、第二）河崁、車路墘の二製所のみでそれも二十日から月末にかけて操業を始め兼化だけが一月六日に開始してゐる従つて一月迄の歩留低く年間の製糖歩合が少いだけに今後に於て取戻し得る余地の多いことはその強味である

併し乍ら今年期に比すれば歩留は一段と好転し同社また往年

一割五分　突破の増収歩合が比較的ユツタリしてゐた為めて今期の如き大増収の年に於ても他社ほどに製糖期間を延長する必要なく十一製糖所（十糖十二）中十一月中旬始りたのは埔子頭（第一、第二）河崁、車路墘の二製所のみでそれも二十日から月末にかけて操業を始め兼化だけが一月六日に開始してゐる従つて一月迄の歩留低く年間の製糖歩合が少いだけに今後に於て取戻し得る余地の多いことはその強味である

併し乍ら今年期に比すれば歩留は一段と好転し同社また往年

低率記録　を示してゐる、期間の低率は一般的にして昨年十月中旬の善風問と共に製糖を開始するに至つたが、殊に臺南、車路墘第二蔗店、車路墘第二蔗店、埔里社蔗店の如きは機械据付期の如きは一割二分六厘という近年にない

低率記録　を示してゐる、期間の低率は一般的にして昨年十月中旬の善風問と共に製糖を開始するに至つたが、殊に臺南、車路墘第二蔗店、車路墘第二蔗店、埔里社蔗店の如きは機械据付期の如きは一割二分六厘という近年にない

	％	％
後壁林	三二五	三二四
同　ミル	三二八	三二四
旗尾	三二六	三二四
恒春	三二五	三二四
臺北	三二四	三二四

（備考）右工場の内後壁林、車路墘第二蔗店、旗尾、臺北の五工場は自営を製造し、旗尾では別に角砂糖を製造す

右の内一割二分以上の工場は機予第二蔗店埔里社蔗作として蔗糖第二工場も将に一割二分前に乗せんとしてゐる、埔里社の歩留が最高位を示してゐるのは埔里山手及び山麓にあつて畑作が多いのと気温低く風も少く蒸発早きに因るらしく、之に引替へ

阿緱旗尾　の歩留が割に低いのは田作原料が割合に多くそれを除作、期末作付の蔗の一月十日前後迄に全部刈取つてしまはなければならぬ事情に係累を配されてゐるやうだ

工場制限問題は 圓滿に解決す

着手工場の成績を見た上で 爾餘の計畫も許す

【臺北電話】臨時産業調査会幹事会に於て既定の昭和十六年迄を第一期とする生産力拡充計画に変更が加へられ、本島のバガスパルプを中心とするパルプ増産計画十万噸は内地同種既設工場の生産制限に関聯して暫時繰延べられる事となつたが、斯くては本島の総合的生産力拡充の計画全般に大なる変更を来すことゝなるので、総督府では一月下旬特産課の田代技師を上京せしめ、企画院を初め関係各省に対し従来通りの計画を説明し極力その実現を交渉せしめる筈であるが、昨年三月に行はれた国民政府の倉庫設置法の公布に伴ふ米穀倉庫の新設計画に関聯して、米穀倉庫の新設計画に関聯して、米穀倉庫の新設計画に関聯して、

日本耶蘇會版 切支丹本覺書

——サトウ十年忌に際して——

（一）

崎震作

わたくしが此の書物を綴らうと思ひ立つには、凡そ二つの動機が存する。

其の第一は「日本耶蘇會祖行書誌」（The Jesuit Mission Press in Japan）の著者アーネスト・メーソン・サトウが死んでから、本年は恰度その十回年に相當すると云ふ事であり、殊更より明治の初年にかけ、天下を挙げて鎖國より開國へと急激な轉換の渦中に投じて、最深の自己に關はることも再度、甚だしくは國家に關しては既に一度ならず、殆ど幾度か生死の間を出入した所の此の我が旅學なる英國外交官は、その幽冥の上から、近世日本外交史上にも重要なる役割を務めてゐるに違ひないが、けれども、今日われ〳〵の記憶に存するものは、駐日公使としての外交官サトウではなくして寧ろ幾々の著述家としての学究サトウの姿である。

バーナード・アレンは彼の「傳記」（日本耶蘇傳會雜誌、第一六二號所載）を書いた時に、公人としてのサトウの經歴のみを取り上げて、学究サトウの面目に就ては殆ど言及する所がなかつた。然しわれ〳〵に取つては、アレンの關知した方面こそ後に續記に値する。駐日公使アーネスト・サトウの日英外交上に殘した功績は、必らずしも彼の手に依たいで宣かつたであらう。彼へサトウがなくとも、第二第三のサトウが現はれて、さしたる不都合もなく之を代行してゐたであらう。現に彼の先驅であるペーク等は、一層華々しい活躍の跡を後進上に殘してゐる。

けれども、学究としての、特に耶蘇會祖行書誌の著者としてのサトウは、若しも彼がゐなかつたとして、果して第二のサトウが現はれてゐたかどうかは甚だ疑問である。勿論、日本耶蘇會の研究家は何も彼一人に限られてゐるではない。パヂューやゾリエーやベルトーリも、皆それ〴〵の富な耶蘇會史や日本書誌を著はしてゐるが、ただ彼等がサトウ程に深徹でなかつた點の話である。

吾國に於て、大正の中期から昭和の初頭にかけて、切支丹や南蛮の研究は甚だ盛大を極めて、殆ど一の流行とも見られるほどであつたが、初めに其の基礎を築き、又之を興へた者は、サトウ以外にはなかつたと斷しても、強ち過言ではあるまいと信ずる。然し、わたくしは茲に、事新らしくサトウの功績を述べ立てようと欲してゐるではない。ただ彼の十年忌を期に際して、彼の日本文化史上に與へた功績は、吾が國民によつてもつと感謝されてもいいのではないかと考へてゐるだけの事である。

扨、數ある第二の動機は、この正月の休みに私は少しく纏めたい事があつて、五六册の古い新聞切抜帖を取り出してあれこれと漁つてゐたが、求むる記事の容に得られなかつた代りに、今を去ること恰度五十星霜——明治廿年の正月、長崎耶蘇會祖行に係る所の「ぎやどべかどる」と云ふ新有の切支丹版本が、丸善の努力に依り、数万の代價を擲つて當國に齎されたと報する記事を見出した事である。日附は明和七年十一月九日、機關新聞名は記入を忘れてゐるが、恐らく東京朝日であらう。

記事は此の大稀覯書の扉の寫眞を添へると共に、丸善では來る十七日から東京本店に於て開かれる「天正遣歐使節三百五十年記念珍籍展覽會」に皆に出陳して一般の展覽に供することになつた、と書き加へてゐる。

事実、この展覽會は豫定通りの期日に東京で、次で大阪に於て開催され、別に目録として菊判一四〇頁ばかりのパンフレットが頒布されてゐる。今そのパンフレットに依つて出陳書の内容を伺つて見ると、一五八六年ドイツで印刷された意欧使節歓迎記録を初めとして、トルセリニの「聖ザビエル傳」、ルイス・ロイスの「日本通信」等があり、大阪の會場では別に、元サトウの藏書に係り後京都帝大の所有に歸した教會の耶蘇會士書簡が附加されてゐる。

けれども、最著名数十点に上る多数の出品書中での眼玉は、矢張り長崎版「ぎやどべかどる」だつたであらう事は疑ふべくもない。何故かと云ふに、此の漢字本假名交りの典籍は切支丹版の所藏者として當時判明してゐたのは、上下二巻の完本を有するのは世界に大英博物館が一ヶ所あるだけ、他はパリ國民文庫に下巻が一部、ポルトガル王室に下巻の殘本に附けて

（上）

脚本を書く人に

劇作家志望者への返事

宮内壽松

T君、君の脚本を送つて来た事を教へてくれとの質問に答へるには大変な時間と、それを完全に了解するに必要な考察を具備してゐるかゐないかをたしかめたいと思ひ出しが来ないが、要は今度国民劇總動員本部で募集した脚本を書くに必要な事項を予知すれば足ると思ふ君の望む所もそれだらうと思ふ。だが、それだけでは係りその場限りのやうな気がするので、少しばかり演劇、戯曲の事をお書して返事に代へよう。

演劇

演劇とは文学的藝術の一形容詞と文学が結びついたのは近世でしかも文学といふより文字と結びついたといつた方がよい、と思ふ位に文字的意味には乏しいものが多いのであつた、これは現在でも内地の田舎の芝居などでは「口立」と稱して座頭が出演する役者全部にセリフを口授してやり決して大都市の劇場から配役のセリフだけを書いた脚本から配役のセリフだけを書いた脚本を渡して芝居の能吉をするなどといふ事はしない、現在に於てさへこれであるから昔に於ては頗る多くあつた。文化が進歩し、劇の内包も複雑それを表現する文字も當に記憶の一手段としてではなく進化して觀衆の眼前に訴へて感ずる情念を醸成するやうにまでなつた時初めて文学的藝術と稱し得るのである。だから演劇が文学的に移行したのは近代劇からであると言つてもよい。が、沙翁やゲーテ、近松のやうな不世出な天才家には例外もある事は承知してゐなければならない（近松を劇作家とするには異論もあるも）。

人間又は社會の事件四邊の客観、現、獨白、歌唱の形式で書かれたる作品

演劇は本質的に對話と動作を要求してゐるものであつて、いくら微妙な動作があつても無言劇では演劇にはならないのである。動かあつて、その反動、つまり因果律的な動作——技藝——が相互的に倚動して表現の目的を達するものでなければいけないのである。對立の對象とは必ずしも人と人、社會と社會との對立としないのであつて手紙一通でも、談話でも構はない。一と二の反應を藝術的に表現して行けばよいのである

近代娘生活讀本

鍾離權

西川滿

鍾離權は燕台の人。後に呂洞賓と改めた。字は寧通。王暁と號し、又空房先生と稱した。生れた時既に怪異があり、長じて漢に仕へ大将となり、吐蕃と戰ひ敗れ死罪に處せられたが、一説には會つて東華先生成道の処に遇はれ、其処で、白雲の袂をまとめ、青銅の劍を持つた一老人から、長生の眞訣、金丹火候の方、書劍解法とを授けられた。その後華陰に入り、太乙刀訣、火候内丹の方を傳へられ。後ち至つて郷里に歸つたが、まもなく終南に登り、巖谷の四皓廟に於て王重陽祕訣を得、遂に仙人となつて、何処かへ立ち去つた。

列仙傳（2）

鍾離權

躍進號 三月號 出づ

中央公論

一家一册！

戰線就役の猪狩部隊のキング

特別添付・小折本附録

論語

文學博士 宇野哲人 抄譯

世間ばなし人情話

●慌しい忙しいと●お年賀●燃えの吸ひ方●日●日これ金佛●●時の政人を喜ばす●●●

南風の歌 (24)

加藤武雄作

富田千秋畫

素朴な愛情 (四)

「幸子様、どうしたんですよ。変な風の中に立っていらっしゃる、又、お風邪をお引きになりますよ。」

女中のサクは、青ざめて来て眉に手をかけた。が、幸子は、サクの言葉などに耳に入らなかった。

「今の人、本当にお隣様の知った人なんですか？」

門燈の仄明りに浮んだ幸子の仄白い顔に涙が流れているのを見ると、サクはびっくりした様うに、

「あれ、泣いていらっしゃるんでございますか？」

さう云はれて、幸子ははじめて泣いてゐた事に気がつき、あわてて、袂の端で涙を拭った。

「本当に、あの人、お隣様の？」

「いいのよ。いいのよ。」

幸子は、顔を伏して、水仕口の方へ廻って行った。

そこには、他の女中たちや、番生の猿山が、何かこそ〳〵ささやき合ってゐた。——見ると、延代もそこに出て来てゐた。

「どうしたの？　幸子さん。」

の間にうるむ眼を拾ふた。私と慣りとに耐へながら帰って行く、幸吉の姿が見えて来た。

延代の目々を光る眼が、矢のやうに幸子の眼間に射た。

「何でもないんですの。」

幸子は、上へあがると、うしろをも見ずに、部屋の方へ歩いてゐた。

「あの手紙の男、また来たんですって？」

「……。」

「追っかけて出たりして——一體どうしたってゐふのよ。」

幸子は、答へる事にもならなかった。

「をかしな人。何をそんなに怒ってゐるの？」

「何でもないのよ。」

何処までも追跡して来る延代に幸子は哀願の眼を向けながら云った。

「だって、をかしいじゃないの。へんな誤解なすったら、女中達の前にも見ッともなッてよ。」

幸子は部屋の中に駆け込んだ。机の前にすわると、窓ガラスの外

病気の為め長いこと筋ばかりつた。せめて手紙を出させ貰かつたのに、関係がうるさいのでそれも出来なかつた。幸吉は心配して見に来たのだ。だのに、あして退ひ返してつた。幸吉はどんなに心外な様に思ってゐるだらう？

どんな誤解をしても、明日は訪ねよう。そこへ、女中が——サクでない別の女中がはいって来て、

「幸子さん様ね。あの、奥様がお呼びでございますと。」

幸子は、ぎくりとした。かうして、伯爵の前に呼びつけられた事は、今までに二度や三度ではなかつた。「戦場がおびでございますとといふ此の意義を受取る時に、幸子は身が縮む思ひがする。今の事を、簡単に、且早く処理が出来をしたに違ひない。

又、叱られるのだ——。といふうちにも、今夜の叱には、絶対どいものに違ひないと感ふと、「只今まゐりますと云つて下さいい。」

と、女中には答へたが、立つて伯爵の部屋へ行く勇気が、幸子には無かつた。

座講店商

愈よ物價法規の強化！店員に協力訓育を

東京市商工指導所巡回講師　前波仲子

青年團に加入せよ

大日本聯合青年團は此の度の改組を機會に一層飛躍を新設し、來月から機構的に商業青年指導に乗り出すことになつた

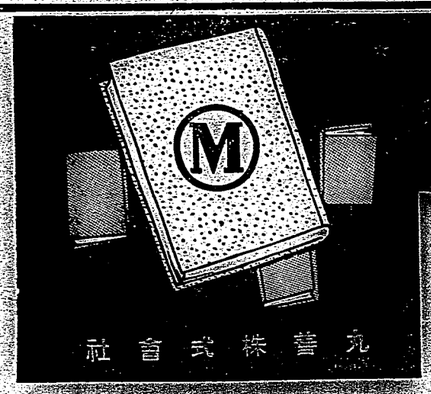
此際商業店員も大いに青年團に加入させ、小にしては一店の繁昌、大にしては一國の隆昌に貢献ありたい、從來の個々の聯絡も勿論必要ではあるが、全體主義のもとに統制經濟が強化される現今協力による集團聯絡を計つてゐないと統制經濟下の活動は勿論國内商業や商業組合の一員としても新時代に適合してゆけないものである、此の集團聯絡には各地商業店員（加入する）ただ、一番手ッ取り早く且つ効果的である

商業技術修練施設

聯合青年團では此の際五ケ年計畫の下に各種の團員修練施設を取り決めた、其の一つは各主要都市に商業と工業の研究會を設け實用的の調査を發表し聯合青年團と聯絡して助成し、指導することである、先づ基本的事項を十二ケ條にまとめあげ其の二番目に二ケ月に一回開催させる是に應ずるテキスト（教授五ケ月程度）は聯合青年團で編纂し、各地青年團に配布する、此のテキストを中心とし、各地實情を織込んで本紙の外に、更に實情を織込んで本紙の外に、更に實情を織込んで本紙の外に、更に

新廳長を迎へて
臺東に築港論昂る
荷役不能覺悟の海路からでも
本年度中に六萬噸呑吐

【臺東電話】臺東築港促進運動は佐伯新廳長當時の明言により築港問題は積極的に考慮すべき段階が判明したため全民は期待してその赴任を待望してゐるが最近三、四年間の臺東港貨物集散の狀態を見るに昭和十年移入二万五千五百噸、十一年移入二万七千五百噸、十二年移入二万七千三百八十噸移出一万二千二百噸、十三年移入一万五千五百八十七噸移出一万二千五百七十七噸移入二万五千五百八十噸移出一万二千二百噸、十三年移入一万五千五百八十七噸移出一万二千二百噸、十二年移入一万五千五百八十七噸と殆ど横ばひの狀態であつて花蓮港の港勢に對し移出入六万噸、十一年移入二万七千五百八十噸移出一万二千二百噸、十二年移入一万五千五百八十七噸と殆ど横ばひの狀態であつて花蓮港の港勢に對し移出入六万噸、十一年移入二万七千三

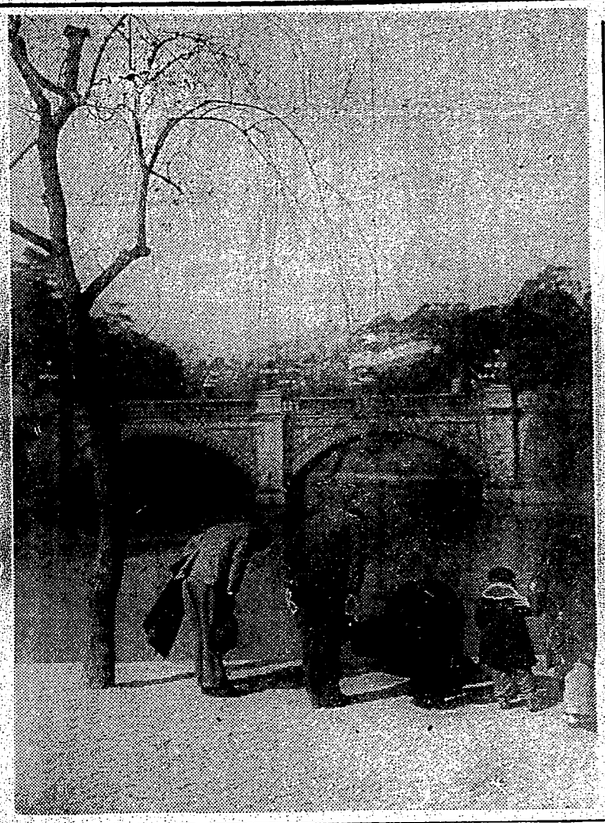


昭和十四年度 推薦校 針指の擇選校學

（參加校名）
日本大學　法政大學　東京慈惠會醫科大學　東洋大學　中央大學　東京女子醫學專門學校　立教大學　日本醫科大學　石川島造船學校　大正大學　日本歯科醫學專門學校　西大學　日本女子高等師範學校　東京高等獸醫學校　東京第一高等學校　東京女子醫學專門學校　東京高等工業學校　東京高等工業學校　東京家政學院　東京醫科學專門學校　東京歯科醫學專門學校　東京獨逸學協會專門學校　東京女子醫學專門學校　和洋女子專門學校　日本女子高等師範學校　東京高等師範學校　東京第一高等學校　東京女子醫學專門學校　日本女子高等師範學校　東京高等獸醫學校　東京高等工業學校　東京家政學院　東京醫科學專門學校　東京歯科醫學專門學校　東京獨逸學協會專門學校　和洋女子專門學校　東京慈惠會醫科大學　東京女子醫學專門

御慶事御間近の大内山

御慶事御間近かに拝する　皇后陛下にはその後も御順調に亙らせらるると承るが、日と共にお喜びの切迫するにつれて側近奉仕者を始め宮内官一同は一入の緊張振りで佳き日を御待ち申上げて居る（御寫眞は五日朝宮城二重橋前にて拜寫）



宣撫班の御題を賜り 全員が恐懼感激

前線の戰士粉骨碎身を誓ふ 新東亞の建設に邁進

【北京六日發本社特電】新東亞建設の大使命に身命を捧げて活動をなしつつある「宣撫班」の人々の上に大御心を御かけさせられ畏くも富田内閣顧問の御用邸御使用御許可御中のため「宣撫班」を賜はつた事は北支新時代に際會して御勵の「宣撫」作に當る千數百名の「宣撫官」の一大感激であるところであるが、この有難き思召に對して北支「宣撫班」では總ゆる方法で各地に傳達一層粉骨碎身を誓つてゐる、「何処まで喰ぬかるみぞ」の作者として有名な八木沼丈夫陸軍報道部長は不在中で「班長御下賜」と云ふ感激の有難き思召を謳はり感泣の外ありません、詩人八木沼さんは出張中で勿論之を拜聴すれば一入感激感泣する事と思ひます、今後は愈々我々の任務重大を極めますので御聖意の程もあり一日に數百名を募集し新鋭の實年が集りました三月には更に數倍の現員を募集し北支建設の中堅として大御心に副ひ奉るやう粉骨碎身する覺悟であります

電球の口金も鐵に

從來の銅製は使用禁止

【東京七日發本社特電】商工省では銅の軍需及び輸出向け優先のため民需用銅の使用制限を行ふ事となり、昨年八月以來使用制限實施として「電球」の口金（「ベース」）に對しても銅の使用を禁止し、鐵を以て代用せしめる方針であるが、電球の口金は從來銅製が使用されて居り且つ金屬業者も自己計畫で生産し、之を機械業者に廻付けてゐたが、銅の軍需及び輸出向け制限の實施に伴ひ急遽鐵製に轉換する

追撃に功を奏し 関東軍連勝す

東西對抗選抜蹴球戰

第八回全關東および全關西選抜對抗蹴球戰は雪天風の好コンディションに惠まれた五日明治神宮競技場において行はれた、試合に先立ち國旗の掲揚、宮城、明治神宮遙拜、最後の武運長久祈願、戰歿勇士に捧げる默禱の式が嚴かに執り行はれそのご二時五分、高山英(土蹴部)、藏島、綾(三蹴部)の三審判のもとに全關東軍の先蹴で開始された、兩軍は先取点を争つて關西軍は二十五分幸運の機會をものにせず全關東も續いてゴールを脅つて1―0終生に入り全關西再びリードしたが、全關東は最後に奮起して成功し

| | | |